

5. 実証研究で得られた成果

学校運営協議会の設置を機に、以下の取組を重点的に実施し、塔南高校の特色の一つである、地域と連携した取組の核とすることができた。

①地域防災の取組を推進する「防災ボランティアリーダー」の育成

校内での防災意識の高まりから、学校運営協議会理事会の場で、生徒から地域防災の取組の推進について提案があり、地域防災の必要性和合致したことから、理事から指導・助言をいただきながら、校内・地域で防災の取組を推進する「防災ボランティアリーダー」を育成することとなった。

「防災ボランティアリーダー」の育成研修として、希望生徒5名が、熊本地震の被災地である熊本県上益城郡益城町を訪問した（令和元年8月5日～7日）。益城町危機管理課・教育委員会、仮設団地自治会、熊本大学教育学部を訪問し、被災時の対応や防災の取組、地域教育支援について懇談したほか、仮設団地での被災生徒への学習支援活動に参加した。

研修後、参加生徒たちを中心に、京都市南消防団と連携し、放水体験等を行う「京都市南消防団防災ハイスクール」（令和元年9月6日）のスタッフとして運営を補助するなど、地域と連携しながら、校内の防災意識の向上に貢献した。

さらに、地域の「吉祥院小学校防災体験キャンプ」（令和元年10月26日・27日）において、31年度は企画段階から参画し、生徒発案の企画を実施したほか、熊本県での研修で、被災時にはコミュニケーションが大切となると学んだことを活かして、高校生が地域の方と小学生を繋ぐ役割を担うなど、「防災ボランティアリーダー」としての活動を本格化させている。

この一連の防災の取組について、第2回理事会で報告し、理事と意見交換を行ったほか、京都洛南ライオンズクラブが主催し、サポートボードである高校コンソーシアムが共催する「第17回 Joint S&E Forum」において、企業経営者等多くの方に「防災ボランティアリーダー」の取組を発信した。

②課題探究活動「キャリアフィールドワーク」の運営体制の充実

学校運営協議会地域協働部会がサポートする取組として、京都中小企業家同友会から訪問先企業の紹介や、事前学習での起業家による講演等への支援をいただき、また、高等学校コンソーシアム京都には、企画・立案、企業との連絡・調整、生徒への指導・評価等の業務等を支援いただいている。サポートボードの支援により、地域や大学・企業等とのより強力な連携が可能となり、また、教員体制に変更があっても、持続可能な取組として実施できる基盤づくりを行うことができた。

学校としても事業運営がスムーズになるほか、とりわけ、生徒にとっても、活動にリアリティを持たせることができ、学校での学びと社会との繋がりをより明確に理解することができるようになった。

第2回理事会で「キャリアフィールドワーク」の方向性について理事に報告し、意見をいただいた。年度内には、取組の総括について理事に報告する。